

2017年9月25日

報道関係各位

ジェットスター・ジャパン株式会社

## ジェットスター・ジャパン、モード学園・HALと 組織・地域を越えた産学連携を推進

最初の取り組みとして、機内誌でのブランド広告を手掛ける機会を提供

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市/代表取締役社長:片岡優、以下ジェットスター)と学校法人 日本教育財団(学主:谷まさる、以下日本教育財団)は、2017年9月4日(月)より、運営する組織・地域を越えた産学連携を推進する運びとなりました。



「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012年7月から運航を開始して5年、ジェットスター・ジャパンは、国内最大のLCC\*として2,100万人以上のお客様にご利用いただいております。一方、日本教育財団は、専門学校から大学までの即戦力を育成する教育機関として「より良い環境と機会をひとりでも多くの若者に与え、かつ社会人として生き抜く力をもつ人間に育てる」ことを使命とし、次世代に輝くような人材育成をしています。

本取り組みでは、今後もジェットスターが発信していきたい空の旅の楽しさを、夢に挑む未来のクリエイターによる自由な発想をもって、これまでにないクリエイティブが生みだされると期待しています。また学生たちにとっては、LCCという新しい交通インフラがクリエイティブのフィールドになることで、より多くの生活者と作品との接点が生まれます。今回の産学連携により今後活躍の場を広げる機会につながることを願います。

なお、本連携の最初の取り組みとして、モード学園(東京・大阪・名古屋)およびHAL(東京・大阪・名古屋)各校の学生を対象に、ジェットスターのブランド広告デザインを決定するコンペを実施します。最優秀賞の受賞者は、この冬に発行される機内誌「ジェットスター・マガジン 2017年12月-2018年1月号」での中表紙として掲載されます。また今後も両者が連携して学生たちのクリエイティブ性を刺激するイベントも企画しており、多様な視点を持った学生のから、数多くの魅力的な、感性あふれるデザインが生まれることを期待しています。

これからもジェットスター・ジャパンは、地域産業全体の活性化や、新しいマーケットの創造、次世代の人材育成に貢献していく所存です。

\* 国内路線数、国内運航便数(2017年9月現在)

### 【ジェットスター・ジャパンについて】

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012年7月より東京（成田）、大阪（関西）、札幌（新千歳）、福岡、沖縄（那覇）に就航し日本国内線の運航を開始しました。その後、名古屋（中部）、大分、鹿児島、松山、高松、熊本へと国内の就航地を広げたのち、2015年2月の香港線の開設を皮切りに同年11月の台北線、2016年3月のマニラ線、2017年6月の上海線と国際路線網を拡充しています。また、2017年12月に初の成田と宮崎を結ぶ定期運航便を就航します。現在、国内最大のLCCとして国内16路線、国際9路線を21機のエアバスA320型機（180人）で1日約100便を運航しており、就航から5年で2,100万人以上のお客様にご利用いただいています。なお、ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、三菱商事株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。

<http://www.jetstar.com>

